

セルフマネジメント論	—	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: カルデナス 暁東				
対応するディプロマポリシー (DP) ・看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。(研究・教育者コース) ・専門領域における卓越した看護実践能力を有している。(CNS・認定看護管理者コース)				

授業目的及び到達目標

【授業目的】

病気とともに生きる人として、患者または利用者は地域での生活の中で、自分自身の療養生活や療養環境をマネジメントする必要がある。日常生活の中の病気や治療によって生じた変化への、患者または利用者の認知的評価、情動、行動を理解し、彼らのセルフマネジメント行動を促進する科学的なアプローチを習得する。

【到達目標】

1. セルフマネジメント行動に影響を与える側面を理解できる。
2. セルフマネジメント行動を促進する科学的なアプローチを理解できる。
3. 自分の関心領域または研究分野において、対象者のセルフマネジメント行動を促進す

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 1： 人間の行動と認知、情動の関係； 患者または利用者が求められるセルフマネジメント； 計画的行動理論 (Theory of Planned Behavior: TPB) の理論背景、枠組み、実践における活用方法について	カルデナス暁東
2	TPBを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
3	TPBを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
4	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 2： ヘルスベリフモデル (Health Belief Model: HBM) の理論背景、枠組み、実践における活用方法について	カルデナス暁東
5	HBMを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
6	HBMを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
7	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 3： トランスセオレティカルモデル (TTM) の理論背景、枠組み、実践における活用方法について	カルデナス暁東
8	TTMを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
9	TTMを用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
10	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 4： 認知へのアプローチ：有益性の発見の概念について	カルデナス暁東
11	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 4： 有益性の発見の概念について文献クリティークし、看護実践における活用方法について	カルデナス暁東
12	セルフマネジメント行動を促進する理論・モデルとその活用方法 5： 行動へのアプローチ：行動の三項強化随伴性 (ABC分析)、実践における活用方法について	カルデナス暁東
13	ABC分析を用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
14	ABC分析を用いて展開した事例演習の内容について	カルデナス暁東
15	まとめ	カルデナス暁東

授業方法

講義と討議：第1回，第4回，第7回，第10回，第12回，
 受講生によるプレゼンテーションと討議：第2回，第3回，第5回，第6回，第8回，第9回，第11回，第13回，第14回，第15回

時間外学習

基礎的な講義には予習して臨むこと。事例または文献に関する演習課題を作成し理解を深めること。各回の時間外学習時間は90分程度。

教科書

「看護実践に活かす中範囲理論」, 第3版, 野川道子, 桑原ゆみ, 神田直樹編著, メヂカルフレンド社, N01/N93/3rd, 9784839216993

参考図書

「応用行動分析学」, ジョン・O・クーパー他著, 中野良顯訳, 明石書店
, 140.18/C87, 9784750338262

「行動変容法入門」, レイモンド・G・ミルテンバーガー著, 野呂文行ほか訳, 二瓶社
, 146.8/Mi29/2nd, 9784861080913

評価方法

事例または文献に関する演習課題〔40%〕、受講態度（参加・貢献度）〔10%〕、レポート・プレゼンテーション〔50%〕

フィードバック

課題に関する回答、レポートについては、授業においてフィードバックする。

その他

成人看護学領域の学生は必修とする。